密集市街地内の遊休地を活用した社会実験実施事業　事業実施計画（実施事業者提出資料から抜粋）

事業名

みんなのうえん PARK

事業名称：「みんなのうえんPARK」

みんなのうえんPARK とは？

コミュニティ農園と“民間公園”を組み合わせた、地域内外の多世代が集う新しい公園です。

コミュニティ農園（みんなのうえんの機能）

無農薬貸し農園

集会場

食と農のイベント

＋

NEW!

民間公園（多様な主体が関わり育てる場所）

貸切できる公園

誰でも入れる

様々なイベント

特徴

○ **誰でも入れる公園のような場所です**

貸し農園エリア、建物以外は普段は開放し、地域内外の人がくつろげる場所にします。時には様々なコラボレーターによるイベントが開催され、非常時には防災拠点として活用できるようにします。

○ **初心者大歓迎の無農薬貸し農園です**

農機具完備、現地とオンラインを駆使した栽培指導、都会で暮らす忙しい人にちょうど良い6㎡の区画の畑。弊社が10年間運営してきたノウハウを全て詰め込んだ無農薬の貸し農園を運用します。（有料）

○ **様々なテーマのコミュニティを育みます**

コミュニティ農園を通して食と農をテーマにしたコミュニティを醸成しつつも、PARKでは、子育て、教育、福祉といった多様なテーマでイベントを行い、人と人の関係性を深めるきっかけを創出していきます。

他の遊休地での展開

ノウハウやプロセスを体系化し、モデルケースとする

事業活動についてブログなどを通して情報発信しつつ、取り組みの情報を事細かに記録を残すことによって他の遊休地に応用可能なノウハウを蓄積します。施策と効果について体系的にまとめていくことによって、広さや立地、事業期間などの諸条件が異なる遊休地においても、要素の組み合わせを柔軟に変えることで最適化でき幅広い展開ができるノウハウになります。モデルケースとして情報を公にすることによって、他の自治体や事業者が同様の取り組みを行うことをできるようにします。

遊休地の様々なシチュエーションに合わせた展開

管理が難しくなった防災空地や、将来の開発のために所有している公有地、団地内の低利用状態の土地、または民間所有の土地など様々なシチュエーションでも展開できると考えています。
地域コミュニティを育み、多様な人が訪れるようになれば、周辺の住宅や店舗にもたらす波及効果も期待でき、また路線価格などの地価指標にも良い影響を与えるので、敷地周辺も含めて考えて経済合理性・公益性を見込めます。

事業の持続可能性

事業で培ったコミュニティを次に活かす

今回の敷地における事業が終了し、仮にこの場所で同様の事業を継続できない形になったとしても事業期間を通して培った地域コミュニティは継続させることができるので、周辺の防災空地等の遊休地で事業を展開していくことができます。

運営者の独立事業として実施する

提案事業者である一般社団法人グッドラックは、すでに「みんなのうえん事業」を各地で展開しており、今後も拡大していく計画のため、本事業の終了後においても、引き継ぎ運営していくことが可能です。

都市での農園コミュニティ需要の高まり

都市住民のライフスタイルは昨今のコロナウィルス感染拡大によって劇的に変化しました。これまでよりも一層住環境や街にゆとりや癒しの時間や空間的な余白が求められており、収束後もこの傾向は続くと考えています。
そのような需要と合わせて、都市のスポンジ化という変化をうまく捉えていけば、街なか貸し農園事業を継続的に成長させていくことができます。また家庭や職場、学校といった環境以外の「サードプレイス」で得られる人の繋がりの重要性についても改めて認知され、農や食といったテーマ型コミュニティについても強く求められていくと考えています。

**以上は事業者からの提案であり、
今後事業者との協議により変更することがあります。**